

多賀山地臨海ゾーン 「高萩市」



安永8年版『改正日本輿地路程全図』(高萩市歴史民俗資料館蔵 134×83.5cm)

知られざる郷土の偉人

日本地図の生みの親 「赤水」を知っていますか？

長久保赤水の生涯

高萩市赤浜に生まれた長久保赤水是、伊能忠敬が江戸幕府に日本の実測図『大日本沿海輿地全図』を献上する40年も前に、経緯線が引かれ日本列島を詳細に描いた『改正日本輿地路程全図』を刊行しました。

赤水は1771(享保2)年に生まれ、通称は源五兵衛、名は玄珠と言います。高萩市下手網の鈴木玄淳の塾に通い、その後、水戸城下の名越南沢から学問を学びました。庄屋を務めながら、1760(宝暦10)年に陸奥、出羽へ旅に出ます。1767(明和4)年には藩の命令により、ベトナムに漂着して帰国した磯原(現・北茨城市)の漁民を受け取りに長崎へ赴きました。

翌年に水戸藩郷土格となり、1774(安永3)年には京都、大坂(※1)へ1年3か月の遊学に出て木村兼段堂などの知識人と交流します。1777(同6)年には六代藩主・治保の侍講(※2)となつて水戸藩江戸屋敷に居住します。治保に農民の窮状をまとめた『農民疾苦』を上申し、対応を願うこともありました。

そして、1779(同8)年に『改正日本輿地路程全図』を作製し、翌年春に大坂の書肆(書店)・浅野弥兵衛から木版手彩色で刊行します(写真①)。赤水は他にも清朝時代の中国図『大清廣輿図』や中国の歴史地図帳『唐土歴代州郡沿革地図』、『地球万国山海輿地全図説』という世界図なども刊行しています。

その間にも70歳代には藩命により『大日本史地理志』の編纂に携わるなど活躍し、1801(享和元)年に故郷・赤浜の松月亭にて85歳で死去しました。

『改正日本輿地路程全図』が与えた影響

『改正日本輿地路程全図』は、天文学に基づいて緯度を引き、京都御所を基点に経線が引かれました。刊行物として初めて経緯線を記した日本図は、約130万分の1の縮尺。主要な地名と道が詳細に記され、当時もとても正確な地図でした。

刊行後、川村寿庵や古川古松軒に「下北半島の形状などの違いを指摘され、赤水は十数度も修正しました。1791(寛政3)年には、さらに舟路を加えて図版を縮小した再版を出しました。

ロシア艦隊の司令官・クルーゼンシュテルンは、遣日使節のレザノフを乗せて日本周辺を測量しましたが、海岸線を描くことはできませんでした。後に『改正日本輿地



日本を
可視化した
偉人です。

路程全図』を入手すると、それを基にロシア語版『日本帝国図』を作成しました。翻訳には、漂流してロシアにいた新蔵と善六らが協力していました。

この『日本帝国図』やシーボルトが記した『日本』には、『改正日本輿地路程全図』やこれを基につくられた日本図が掲載されていました。欧米列強は日本の海岸線や各地の地名を知り、日本との通商に來航することになりました。

文||小野寺淳

43 ※1:現在の「大阪」という文字が使われるようになったのは明治時代から。 ※2:君主に仕え、学問を講じること。また、その人。